

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人大利根学園
大利根ふじこども園

1. 本園の教育目標

子どもひとりひとりを大切にし、豊かな子どもの育成を目指し、「やさしく たくましく げんきなこども」を教育・保育の目標として、次の3項目と6つの目指す幼児像を掲げる。

- みんななかよく・・・思いやり
 - ・約束を守り、仲良く遊ぶ子
 - ・人の痛みのわかる、思いやりのある子
- 自分のことは自分でできる・・・自立心
 - ・友達と遊び、健康でたくましい体をつくる子
 - ・人の話をよく聞き、自分の考えや思いを話すことができる子
- つよいからだとやりとげる心・・・生きる力
 - ・元気にあいさつができる子
 - ・生き生きといろいろなものに興味を持つ子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、保育や園行事のあり方を見直し、教職員が共通理解をはかりながら実践することで教育・保育の質を高める。指導計画を振り返り、子どもたちが自ら考え行動できる環境づくりを心がける。

また、保護者ともコミュニケーションをとり、園児についての情報を共有し共通理解をはかり保育に生かせるようにする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育内容の充実・改善	B	発達段階に応じて、子どもの思いを取り入れ、子どもを主体とした活動を取り入れた保育を推進していきたいと考えているが、まだ模索している現状である。さらなる充実・改善が課題である。
2	特別支援教育	B	支援が必要な園児について教職員間で共通理解をはかり、医療・福祉の関係機関と連携しながら、園児への対応の仕方や保護者への支援を行うことができた。ひとりひとりに応じた個別の指導計画の作成が課題である。
3	保護者への対応・情報発信	A	保護者と必要に応じて、直接話したり電話連絡などの手段を用いたりして意見交換を行うことで、情報を共有し、保育に生かすことができた。またおたよりやメール連絡網、ホームページなどで情報を発信してきた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	教職員ひとりひとりが学校評価の主旨を理解し、前年度以上にそれぞれ適切に自己点検・自己評価に取り組んでいる様子が見られた。客観的に自らの保育・教育を振り返ることで、明らかになった新たな課題を次年度に継続して、工夫・改善していけるような取り組みをしていきたい。また、課題への取り組み状況を教職員間で情報共有し、共通理解することで、本園としての保育・教育目標を達成することができる。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育課程の編成と評価・改善	日々の保育・教育の内容の見直し、改善していくことで、次の保育活動や環境構成に生かしていく。また、子どもの成長の様子や変化を記録し評価することで、ひとりひとりの子どもの思いや自主性を尊重し、保育教育活動に取り入れていく。
2	特別支援教育	支援が必要な園児に対しての支援計画をもとに、医療・福祉の関係機関とも連携して支援していく。また、気になる子への対応のしかたを協議し、その保護者とも共通理解を図りながら支援できるようにする。
3	保護者理解と個別対応	園児の様子を積極的に保護者に伝え、園児の情報について共通理解を図りながら保育に役立てるとともに、保護者への子育て支援を行う。保護者からの相談や意見等は、担任だけでなく職員間で共有し、個に応じた対応を心がけていく。

6. 学校関係者評価

教職員による自己評価及び保護者による学校評価をもとに評価を実施した。
今後のこども園運営の改善と発展に努めていく。

- ・概ね適切な保育運営がなされている。
- ・子どもたちは、コロナ禍ではあるが、保育内容を工夫しながらのびのびとした中にも規律ある生活している。
- ・園行事等も感染状況を考慮しながらも、子どもたちの成長への必要性を考えて工夫しながら実施し、子どもたちの園での様子や成長する姿を見ることができた。
- ・安全面や衛生面からも引き続き、園内の施設・設備の整備を進めていってほしい。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。